

【日時】平成18年6月2日(金) 19:00~21:10

【場所】下山支所2階会議室

【出席者】委員10名(欠席6名)

事務局 支所長 副支所長 加藤 酒井 川合

【次第】1 開会

2 会長あいさつ

3 会議録署名委員指名

4 前回会議録の承認

5 ワークショップ

(1) 課題解決ビジョンの選択

(2) ビジョンの優先度を検討

(3) ビジョン達成に向けたアイデア出し

6 閉会

---

【内容】

1 会長あいさつ

2 会議録署名委員氏名

鈴木重郎委員を指名

3 前回会議録の承認

4月22日土曜日に下山交流館の2階の会議室で、第6回下山地域会議を開催しました。内容は、豊田市観光基本計画についての意見書について協議をしていただきました。協議の結果、下山地域会議としての観光基本計画に対する観光推進の目標案につきましては、妥当なものと判断することになりました。次にコミュニティ会議の設立についてであります。地域会議として区長会にコミュニティ会議を立ち上げていただくよう提案するということでした。現在各地域から準備委員の選出をお願いしているところであり、6月早々には、7名体制で準備に入っていこうと思います。会議録の承認については以上であります。

(全委員承認)

4 ワークショップ

(会長)本日、ファシリテーターの先生に来ていただいておりますので、昨年度に続きワークショップを継続的に行っていきますのでよろしくお願いします。

(ファシリテーター)大変ご無沙汰していました。2月以来ということもありまして、今日は以前の内容を振り返りながら進めさせていただきます。今日の資料に「地域課題の検討ワークショップの大まかなスケジュール」が配布されていますがこの資料を見ていただきまして、今まで行ってきた内容と今後の進め方について説明をさせていただきます。10月に、地域会議が立ち上がり、12月ごろまで下山地域の時代の大局変化によって、今後この地域の重要な課

題がどのようになっていくかについて話し合っていました。また、それと同時進行でこの地域の地域資源の拾い出しをしていただきました。そして年が明けまして、この地域の地域課題を皆さんの投票により「地域の担い手不足と高齢化社会」としました。1月・2月におきましては、この下山地域がどのような状態になっていけば課題が解決しているのかについてワークショップを行い、皆さんから多くのアイデアを出していただきました。2月の最終のワークショップにおいては、出されたアイデアについて、重要性和実現可能性について協議いただき、委員さんに1つないし2つのビジョンを選択していただき、「課題解決ビジョンの分析」として取りまとめさせていただきます。先回のワークショップはここまで行いまして、そのまとめた資料がお手元にある資料であります。今日は、重要性和実現可能性について協議をしていただき、私たちが取り組むべきビジョンについて絞り込んで優先順位をつけて、そのビジョン達成に向けたアイデアを出していただきたいと思います。実際にアイデアを出しましても実行しなければ、何にもなりません。地域の人を取り込み、具体的な計画づくりを行っていくのが、7月から8月にかけてであります。そして具体的な計画を策定するあたり住民アンケートが必要であればアンケートを実施し、他の地域で成功した事例があれば視察を行い、あらゆる手をつくして、目指すビジョンに向けて問題を解決していきたいと思います。このようなスケジュールが、地域会議の大まかな流れになります。今日10名の方が出席いただいていますので、5名ずつの班に分かれていただき、課題解決のためのビジョンを選択していただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(ビジョン選択についてのグループ内検討)

(ファシリテーター)それぞれ意見交換をしていただきました。お手元にシールを2枚ずつお配りしましたので、地域会議として取り組むべきビジョンをこの中から2つ選んでいただいて、シールを貼っていただきたいと思います。

(各委員のビジョン選択のシール貼り)

(ファシリテーター)シールを貼っていただきましたので、次にビジョンを選択していただいて、優先度について全体で検討をしていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

(選択と優先度の決定についての全体検討)

(ファシリテーター)全体で協議をしていただき、皆さんが合意していただいた内容は、「お年寄りが生き生きと働いていて他の地域から見てうらやましい」と思われるような地域になるということがひとつのビジョンとなりました。それと、住みやすい地域というのは、女性が重要な鍵になるという意見がありました。女性の視点として住みやすい暮らしやすい地域をつくるということで、女性が働きやすい環境をつくることが望まれるということでありました。手段としては、新しい組織をつくる必要があるという意見もありました。これが、皆さんが合意した内容であると思います。1番が高齢者のこと。2番が女性のこと。3番が組織のこと。ビジョンをこの3つにさせていただき、手段と目的がありますので、この3つのビジョンについてのアイデアを出していただきたいと思います。また、今日出していただいたアイデアをパソコ

ンで打ち直して、皆さんにフィードバックさせていただきます。今から、どんなアイデアでもかまいませんのでポストイットに書いていただき、表に貼っていただきますのでよろしくお願いいたします。

(個人での検討・グループ内発表・全体発表)

- ・ 自分で作った農産物の直売(自分で販売)
- ・ 趣味と実益
- ・ サークル活動
- ・ 地域資源を生かした金儲けの仕組みづくり 一人ひとりのアイデアを生かした商品の開発(間伐材)
- ・ 自分の持っている趣味・特技を生かしたグループ活動(生きがいを見つける)
- ・ グループで遊休農地を活用して農産物生産・直売所の経営
- ・ 高齢者が伝統ある行事を盛大に行い若者を引き付ける
- ・ 魅力ある高齢者が作ったものの効果的なプロデュース(これを若者が考えてやってもらえて、それも収入につながればなおよい)
- ・ 直売所などの販売場所や売り先の確保
- ・ 高齢者の知識・技術を必要とする若者が入りやすくするための体制づくり
- ・ 高齢者の作ったものの知識等を一般消費者に知らせる組織、媒体づくり
- ・ 安心して子どもを預けられるように保育士の確保。それを下山の保育園の信頼・ブランドに
- ・ 女性が安心して十分収入を得られるには、地域に短時間の労働でも適切な収入を得られる仕事場をつくる
- ・ いなか料理を確立して販売する
- ・ 定年退職者の農林業への誘導(農ライフ)
- ・ 地域住民が一体となって活動ができる組織づくり(コミュニティ組織の確立)
- ・ 特産品づくり(山林を活用し、杉林でのわさびづくり)
- ・ 田舎を表に出した地域づくりをお年寄りの生きがいにつなげていく
- ・ まず女性・若者の組織をつくり、リーダー格をつくる
- ・ 元気で頑張っている他県に視察にいらしてもらう
- ・ 参考にして、できることから行動を起こしていただく
- ・ お年寄りの方や女性で元教師の方などに学童保育で働いてもらう
- ・ 女性の会をつくる
- ・ 旧下山の施設を利用する
- ・ いろいろな人が参加しやすい趣味や目的の小規模なグループからつくる
- ・ 地域特産物の推進(幻の米、ミネアサヒの有利販売)

(ファシリテーター) 次回は、このアイデアを見ていただいて、やれることを探していきます。アイデアが決まると、活用資源もでてきます。次回はこの表を完成させて、少しずつこういう方策でやってみようではないか、この資源を使ってみようではないかという議論をしていただきたいと思います。今日は、お疲れさまでした。